

日銀の視点

このたび、前任の吉田からバトンを受け継ぎ、本欄を担当させていただきますことなりました。せんえつながら、少しでもご参考となる話題を取り上げていきたい。

赴任のため水戸駅に降り立った3月中旬、本紙1面では県内初の新型コロナウイルス感染者確認の記事が大きく掲載されていた。ホテル、飲食、タクシー、土産物などの業界からは、梅まつりの時期にもかかわらず、客数が大きく落

鈴木 直行

日銀水戸事務所長

ち込んでいけると聞き、当地への影響の広がりや早速痛感した。医療従事者をはじめ、新型コロナウイルスへの対応に日夜尽力されている方々に、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

許し願いたい。

一つ目は、本県におけるお札（日本銀行券）の円滑な発行と流通。1945年に水戸事務所が開設された経緯をひもといてみると、戦時下の交通手段の途絶により、日銀本

歴史の重みを意識して、任務に取り組みたい。

二つ目の役割は当県の金融経済に関する調査。新型コロナウイルスによる影響の大きさや期間は、不確実性が大きいとみられる。統計やデータ

ピンチへの対応が原点

こうした厳しい時期において、日銀水戸事務所の一員として、微力ながら皆さまの力になれるよう、しっかり取り組みたいと考えている。ここで水戸事務所の主な役割を、あらためて紹介することを

店から当地への現金回送が困難となる恐れがあったため、地元の金融機関とともに、当地での銀行券の発行・流通を支えることが主な目的の一つであった。ピンチへの対応が

て、本県経済を支えている幅広い分野の方々への声を聞き、影響の実態を丁寧に把握して報告していきたい。

三つ目は茨城県金融広報委員会、事務局として、県、水戸財務事務所、金融機関、市町村をはじめとする関係者とともに、金融経済に関する学習支援や情報提供を推進する役割。このところ、講演などの活動は難しくなっているが、明日の茨城県を担う人材の育成という観点からも、学校での金融教育などを支えて

え、これらには表れていない動きや兆しについて、水戸事務所の業務を担うのは、4月初めに迎えた新入行員を含む男女総勢6人のメンバー。職員の健康を守りつつ、水戸事務所としての役割を果たしていきたいと考えている。皆さまからのご指導を、あらためてお願い申し上げます。（次回は5月9日掲載）